



第1回 やまだ まさひろ
山田 真広
(駒澤大学大学院人文科学研究科)

はじめまして！山田です！

はじめまして。記念すべき連載1回目を担当いたします、駒澤大学の山田です。どうぞよろしくお願いいたします。

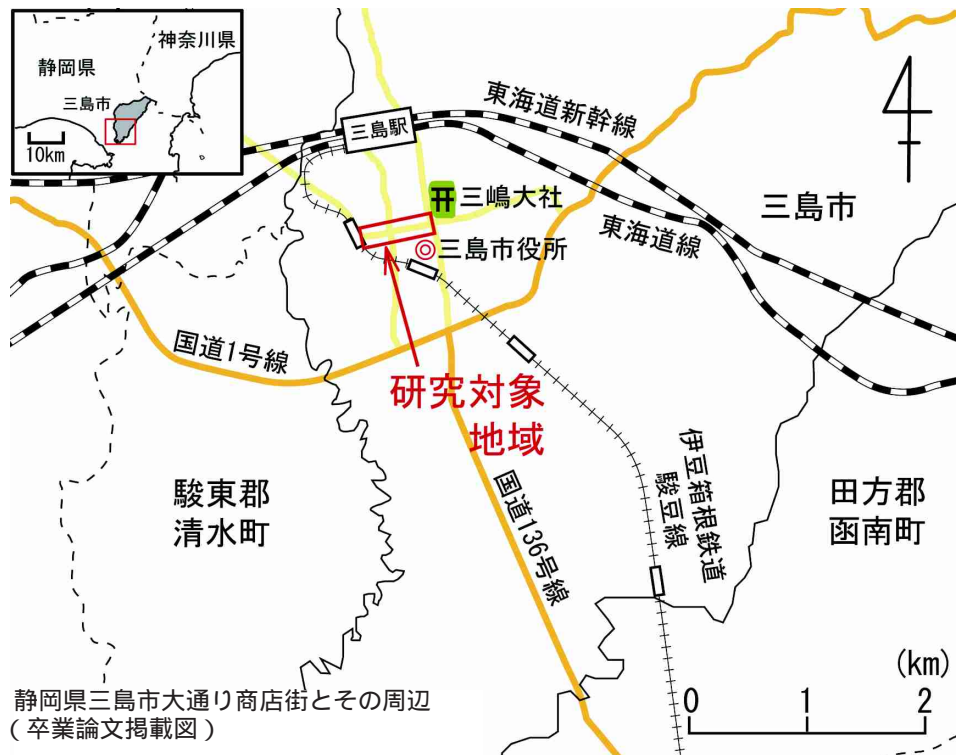
私が卒業論文について考え出したのは3年生の秋頃のこと。自分がかねてから中心市街地について興味を持っていたため、静岡県三島市の通称「大通り商店街」をフィールドに、商業構造について研究することになりました。

三島市は、静岡県東部に位置する人口約11万の市です。伊豆国一宮として由緒ある三嶋大社の門前町であるとともに、東海道第11番目の宿場町として、箱根を越える旅人達の休息の場として賑わった歴史のある街です。

調査対象の大通り商店街は、かつて宿場を構成していた本陣や旅籠の跡に形成された、現在の三島市中心部を東西に貫く全長約800mの商店街です。近年では、電線類地中化工事やアーケード撤去工事といった商店街再整備事業（2002年度～2010年度実施）や、年3回の歩行者天国実施等を通じて、三島の顔としての賑わい創出に取り組んでいます。

まずは白地図作りから

調査地域が決まり、まずは商店街の白地図作り着手しました。地図の作成にあたっては、当時授業で習ったばかりのGISを利用することにしました。具体的には、国土院が公開している「基盤地図情報」から該当する地域のデータをダウンロードした上で、シェープファイルに変換してGIS上で編集できるようにしました。これにより、紙の地図を一からパソコン上で図化するよりも大幅に作業時間を短縮できた上、誤差の少ない精密な主題図作成が



静岡県三島市大通り商店街とその周辺 (卒業論文掲載図)

可能となりました。

続いて、出来上がった白地図を持って現地へ赴きました。GISやインターネット上の地図サービスが急速に発展しつつある昨今ですが、常に都合よく自分の欲しい情報があるとは限らないものです。この時の調査では主に、建物の形状・各店舗の業種・営業時間(定休日を含む)等を確認していきま

した。少しでも回収率を上げるため、各店舗を一軒ずつ訪ね回り、直接配布・直接回収しました。時にはにべもなく断られてしまったり、調査内容についてお叱りを受けたり、はたまた税務調査と間違われたりしたこともありましたが、多くの店主様には大変快くお引き受け下さり本当に感謝しています。有効回答率は69.9%とまずまずの数を稼ぐことができ、真夏の暑い中商店街を駆けずり回った甲斐があったです。

苦勞の連続！アンケート調査

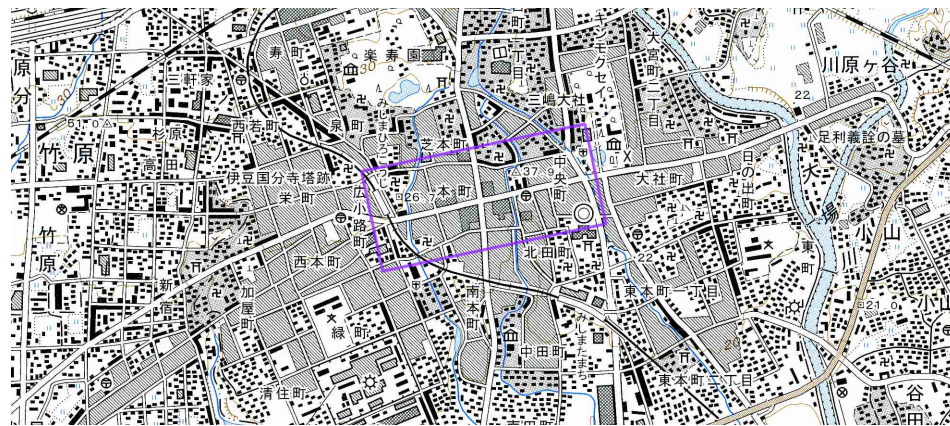
月日はせわしく過ぎ、早くも4年生の夏休みを迎えようとしていました。夏休み中は、主にアンケート調査と聞き取り調査に時間を費やしました。お盆休みや夏祭りの時期と重なるため、何としても8月初旬までにアンケートの配布を終えたいとの一心で、連日徹夜を重ねながら大急ぎでアンケート製作に取り組みました。

アンケートでは主に、各店舗の創業年、客層、売上変化等について尋ねま

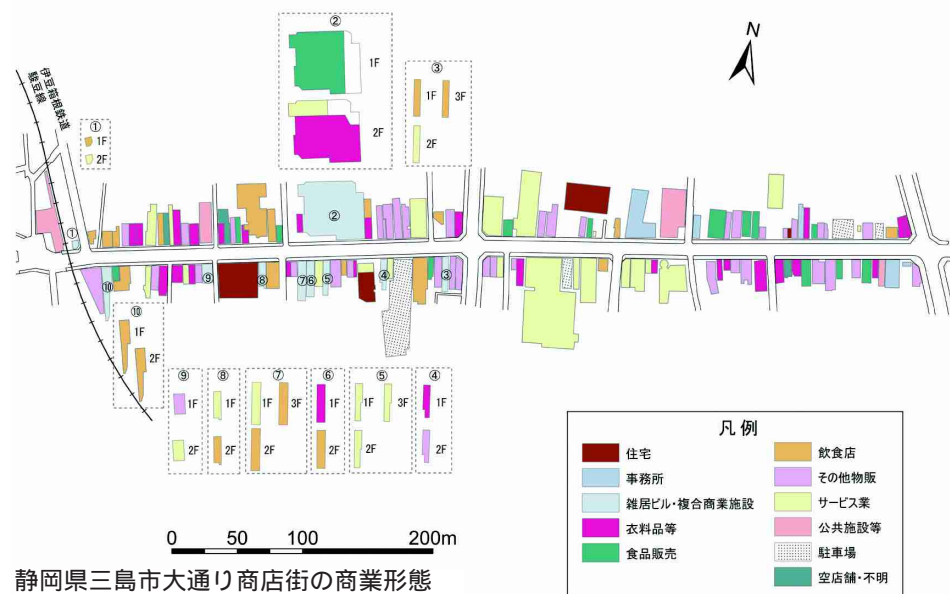
した。少しでも回収率を上げるため、各店舗を一軒ずつ訪ね回り、直接配布・直接回収しました。時にはにべもなく断られてしまったり、調査内容についてお叱りを受けたり、はたまた税務調査と間違われたりしたこともありましたが、多くの店主様には大変快くお引き受け下さり本当に感謝しています。有効回答率は69.9%とまずまずの数を稼ぐことができ、真夏の暑い中商店街を駆けずり回った甲斐があったです。

夏休み明けはアンケートの集計と主題図作成に注力し、少しずつ卒論の形が見えるようになってきました。

アンケートからは主に、観光客による利用が相当数あるだろうという自分の予想に反して、地元主婦層が客層の約9割を占めているということ・後継者が確保されている商店は全商店のうち約6割あること・調査区域の西半分(本町)では店舗の入れ替わりが比較的頻繁で新しい店舗が多いのに対し、東半分(中央町)では創業50年超の伝統ある店舗が多いこと・道路整備のためにアーケードが撤去されたことで、雨風が吹き込みやすくなった等不便な思いをしている店舗が多数あること等が明らかになりました。



1:25,000地形図「三島」平成19年更新



静岡県三島市大通り商店街の商業形態 (卒業論文掲載図)

調査結果を主題図にまとめる

主題図作成に当たっては、アンケートの回答内容を店舗1軒ずつGISに入力して階級区分図を作成する方向でいきましたが、個人情報保護の観点から断念しました。調査地域のスケールが大変マイクロであったため、先の方法だと各店舗の回答内容が特定できてしまうためです。これから卒論等に取り組みうとされる学生さんには、こうしたスケール設定についてもご注意ください。

外が紅葉で色づく中も机に向かって文章や図表づくりに没頭し、12月、ついに卒業論文を書き上げました。学部時代最後の仕事を無事に成し遂げ、友人たちと達成感を分かち合えたことは良い思い出になっています。

年明けは提出した論文の修正とゼミ内での発表会を行い、これで卒業式ま

卒業論文の成果を発表へ

大会発表へ向け、指導教授と話し合いながらもう一度卒論の修正を行うこととなりました。「空間的な考察が不十分」「グラフの説明が冗長すぎる」「アンケートで設定した質問の意図が不明」等といった修正すべき点が色々見つかり非常に苦労しました。しかしこの修正作業を通じて、学会発表を含めたあらゆる発表の場で心掛けるべきことや、簡潔で明瞭な発表のためのヒントを数多く伝授してもらうことができ、貴重な体験をさせてもらえたと感謝しています。

かくして、卒論そのものの作成以上に大変だった再構成作業を終え、大会発表に向けて詰めの準備を進めていたところ...東日本大震災の影響で、会場発表が中止となってしまいました。震災直後の社会的混乱ゆえ仕方ないとは思いますが、折角の口頭発表の場が無くなってしまったことは今思い返すと大変残念です。

そして現在、修士論文作成に向けてテーマ設定等準備を進めています。修論では商店経営者から利用者に視点を移しつつ、高齢化や郊外型ショッピングセンターの登場等に伴って中心商店街での購買行動や商圈構造がどう変化したか等について詳しく研究を進める予定です。卒論の作成を通じて得られた知識や経験を活かし、じっくり時間をかけてより良い研究成果を残せるよう取り組んでいきたいと考えています。

(第2回は立正大学大学院の予定です)



山田真広(やまだ まさひろ) 写真後列右。院生会には7名が所属しており、交通、歴史地理、観光、商業、湖沼環境の各分野を究めるべく日々勉学に取り組んでいます。また、院生の一人が所属する「駒澤マップアーカイブズ」では、本学所蔵の外邦図の整理と目録の作成を進めています。院生会の活動とともに、合わせてご注目下さい。

駒澤大学大学院人文科学研究科地理学専攻 (<http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/in-chiriken>)